ELECTRONIC AUDIO EXPERIMENTS

Technical Manual

Citadel

Manual Revision 1

November 22, 2022

John W Snyder

1 Introduction

Electronic Audio ExperimentsのCitadelを購入いただきありがとうございます。このマニュアルはペダルを深く理解し楽しむためのインフォメーションが全て含まれています。またペダルのバックグラウンドも解説します。
Citadelは1960から70年代のイギリス製アンプが持つサウンドからインスパイアされた、プリアンプスタイルのオーバードライブです。特定のアンプサウンドを再現したペダルではなく、いくつかの設計要素を組み合わせて特別なものを作りたかったのです。クラシックな馴染み深いドライブトーンに、EAEのラインナップに共通する透明感、ダイナミクス、パワーを追加しました。またブースト、ディストーション、ファズペダルを真空管アンプへスタッキングさせたフィーリングを、そのままに届けるプラットフォームでもあります。
CitadelはEAE Model feTのリミックスであるといえます。Model feTのインスパイア元であるSunn Model Tは、Fender 5F6-A Tweed Bassmanの下に連なる膨大な家系図の中にあるアンプです。5F6-Aは本当に少しだけの変更で、サウンドに大きな影響を与える回路設計なのです。ロックミュージックの進化とともに歩んできた回路と言えるでしょう。
EAEチーム（特にBrad)は長年たくさんのアンプに触れていて、私物のアンプも多くも大幅にモディファイされています。そして幸運なことに作業台では何台かのModel T を扱うこともありましたが、私たちはこの神聖なデバイスを改造することなんてできませんでした。その代わりにBradはジャンクのModel feTの基板を持ち出し、いくつか手を加えて"Marsha"と名付けたプロトタイプを作り上げました。そのサウンドは言ってしまえば「一文字違い」というところでしたが、そのプロトタイプが工房に何年も置かれ続け、私達の気を惑わしていたのです。いくつかの鍵となるモディファイを行うことで、ドゥーミーなオーバードライブをピアノのようなサウンドへ進化させられたのです。そしてこのペダルが特定のアンプに紐付けられたものでなく、独自のボイシングを持つのも嬉しいことでした。
それがこのCitadelです。Model feTと同じように、amp-in-a-boxペダルとして、クリーンなパワーアンプへ接続するプリアンプとして、またはアンプ無しのダイレクトレコーディング用機材として、柔軟に使用ができます。ぜひお楽しみください。

-John Snyder, EAE

2 Power and I/O

信頼できる9VDCセンターマイナスのパワーサプライ(Trutone, Voodoo Labs, Strymon, Cioksなど）を使ってCitadelを起動してください。エフェクトオン時の消費電力は約75mAです。AC出力、または9Vを超えるDC電圧はペダルを故障させる恐れがあります。電池は使用できません。

Citadelにはパワーサプライ保護回路が搭載され、逆位相の電源、9V以上を入力した場合はペダルがシャットダウンします。Citadelはトゥルーバイパスのソフトタッチリレーバイパスで、電源が無くなるとリレーは自動的にバイパス状態になります。

3 Controls

コントロールについては以下です。

Bright Gain

時計回しで並列に配置されたBrightチャンネルのゲインを追加します。チャイミーできらびやかなボイシング。高い設定ではドライブトーンにバイト感を付与します。ゼロのときBrightチャンネルを完全にミュートします。

Normal Gain

時計回しで並列に配置されたNormalチャンネルのゲインを追加します。ダーク、フルボディなボイシング。高い設定では分厚いゲインサウンドに。ゼロのときNormalチャンネルを完全にミュートします。

Master Volume

時計回しで全体の出力レベルを調整します。最もクリーンなゲイン設定でも非常にラウドなボリューム出力が可能です。設定は慎重に！

Bass, Midrange, Treble

パッシブ、3バンドFMV（Fender/Marshall/Vox)タイプのトーンスタック。若干のミッドスクープがありかつ可変幅もアクティブEQと比較するとマイルド、実際のアンプを彷彿させるオーセンティックな雰囲気を持っています。パラメータは相互に影響します。クリーンからミディアムゲイン設定時（つまり最も広いレンジ）に、最もEQ設定を反映します。ミッドスクープされた実際のアンプに繋ぐためにCitadelをフラットなEQにしたいなら、Midrangeは最大、BassとTrebleはゼロにしてください。

Citadelはトゥルーバイパス、ソフトタッチのリレースイッチングです。電源喪失時は自動的にバイパス状態となります。

4 Detailed Operating Instructions

Citadelはいくつかの異なる使用方法があります。

標準的なギターペダルとして: ギターアンプのインプットへ接続。Citadelはセットアップの最後段へ。前段にお気に入りのペダルを繋いでみよう！

プリアンプとしてFXセンドリターンへ: アンプのエフェクトセンドリターンへ接続すると、Citadelをプリアンプとして使用できます。

特定のパワーアンプと組み合わせるプリアンプとして: 出力を特定のパワーアンプの入力へ接続します。この方法は一般的なギター/ベースのスピーカーキャビネットと組み合わせることを想定しています。それ以外は以下を御覧ください。

アンプを使わないセットアップ:Citadelの出力をアナログ、またはDSPタイプのスピーカーキャビネットシミュレーターに接続、そのあとにPAのパワフルなフルレンジスピーカー、またはモニターへ渡してください。Citadelをオーディオ I/Oに直接接続し、DAWプラグインでスピーカーキャビネットのエミュレーションを使うことも出来ます。

Citadelを最初に使う際は、EQノブは全て中央から始めると良いでしょう。Bright GainはオフにNoral GainをMasterボリュームを好みのポイントまで上げていきましょう。次にBright Gainを上げ、追加のゲインや高域の存在感をプラスしましょう。NormalとBrightのゲインをそれぞれ微調整し、好みのサウンドやフィーリングを探りましょう。

この後はEQを少しずつ調整し、回すごとにサウンドを注意深く聴きましょう。FMV EQは一般的なものですが、いくつかの特徴があります。

- Bass, Midrange, Trebleノブは強く相互に影響します。調整するごとに、予想していなかったコンビネーションが見つかるでしょう。
- EQはローゲインな設定時により効果を発揮します。ハイゲイン時はゲインステージ間のダイナミックレンジが減少し、効果的なEQの範囲も狭まります。
- このトーンスタックは、最初からミッドレンジがカットされています。実際の最もフラットなレスポンスはBass 0、Treble 0、Middle 10となります。この設定はFender Twinのような既に顕著なミッドカットが存在しているアンプとの組み合わせ時に効果的です。
- EQノブの操作レンジは、全ての位置を試してみましょう。例えばTrebleを下げきった設定は状況によっては効果的なベースブーストを発生させます。

Citadelは単体でもグレイトなサウンドですが、他のペダルと組み合わせたときこそ本領を発揮します。例えばFuzz　Faceタイプのペダルでは60sスタイルのサイケデリックなロックサウンドとなり、わずかに歪んだアンプがシンプルなファズをウォール・オブ・サウンドへ変貌させます。Rangemasterスタイルのトレブルブースターは、初期のヘビーメタルサウンドに。Screamerスタイルのオーバードライブと高出力のハムバッカーを組み合わせると、80sスラッシュサウンドに。可能性は無限です。

Citadelは非常にラウドです！ボリュームを犠牲にすること無くクリーンなトーンを達成するため、私たちはこのペダルをなるべくラウドに設計しました。非常に高いボリュームやゲイン設定は、フィードバックや望まないクリッピングを生みます。ペダルをオフにした音量と、ペダルのマスターボリュームは同じくらいに設定し、そこから少しずつ調整してください。

Revision History

Version	Changes
0	Draft Copy